

私立学校専門研修会 次世代リーダー育成部会 実施報告

◇主催 一般財団法人日本私学教育研究所 ◇後援 日本私立中学高等学校連合会

研究のねらい

未来と夢を、私学に託す ～未知の時代に躍動する学校の創生～

少子化や経済不況、災害の影響などによって、学校経営環境が著しく変化する中であっても、学校が未来永劫的に存続・発展し、子どもたちの未来の礎を築くことは社会的な使命である。学校経営者には、「変化を読み取り柔軟に対応する能力」、「的確な決断を下す為の知識」が求められており、将来的に学校経営の舵取りを任されることになる経営後継者に求められる役割と責任は益々大きくなっている。当部会では、自校の建学の精神、歴史を深く理解した上で、次の時代を見据え、自校と経営後継者の理想とする将来像を描き出す為の考え方や視点を学び、その実現に向けて教職員と連携し自律的に行動する為に必要となる様々な知識やスキルを習得する。また、現職の学校経営者が理想や現実を語り、その経験から得られた教訓などを次世代に伝えるとともに、関係者とのネットワークづくりや情報交換の場とする。

本年度は、厳しい環境下でも常に教育界をリードして若き人材を育む私学の次世代リーダーが、先の読み難い未来を子どもたちが切り拓いていく為の新たな学びを支え得る強靱な経営体制の構築に向けた方策とそのヒントを探る。はじめに、吉田晋・日本私立中学高等学校連合会会長・当研究所理事長(中央教育審議会委員)が、私学助成と私学振興策、新学習指導要領と高大接続改革など私学を取り巻く最新情勢を含めて講話する。基調講演では、文部科学大臣認定「職業実践力育成プログラム」として、京都大学が将来私学経営の中核を担うプロフェッショナルを育てるべく2017年度から開講されている『私学経営アカデミー』の主任講師を務める高見 茂 京都大学大学院前教育学研究科長・教育学部長、京都大学学際融合教育研究推進センター特任教授、公益財団法人未来教育研究所理事長を講師に迎え、これからの時代に求められる学校運営に係る総合的な知識・スキル・実践力の獲得に向けた人材育成を支援する新たな取り組み、公私立の役割と教育行財政のあり方、次代の教育と私学を牽引するリーダーに求められる力などについて講演を行う。午後は、関西を代表する総合学園として小学校から大学院まで一貫教育を実践する<立命館中学校・高等学校>を訪れる。同高等学校は、2002年度にSSHに指定され、2011年度からコアSSH、2013年度からはSSH科学技術人材育成重点校の指定も受け、国際的科学教育の拠点として大きな成果を上げている。また、2014年度からSGH指定校としての研究開発とともに、生徒のほぼ全員を対象とした課題研究への取り組みを実施している。視察では、SSH・SGH、課題研究科(同校独自の教科横断型組織)など先進性を発揮した教育実践活動について学び、充実した施設等を見学する。ネットワーキングパーティ等の交流プログラムでは、リーダーが本音で語り合うネットワーク構築の機会を提供する。

会 期 平成30年12月7日(金)

会 場 京都大学 吉田キャンパス 百周年時計台記念館 国際交流ホールⅢ
京都府京都市左京区吉田本町 (京都駅から市バス「京大正門前」下車 / 京阪出町柳駅から徒歩約20分)

参加者数 70名

参加対象 A. 次世代リーダー(次世代の理事長・校長等)を志す者
B. ニューリーダー(新任の理事長・校長等)
C. 次世代リーダーを育成する現職リーダー(現職の理事長・校長等)

※参加対象校は、都道府県私学協会加盟の私立中学校・高等学校・中等教育学校

基本日程

	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
	30	50	30	30	30	30	30	30	30	30	30
12月7日(金)	受付	開会式	①講話	②基調講演	パワーランチ/ 移動	③学校視察 ※ 立命館中学校・高等学校	移動	移動	移動	④ネットワーキングパーティ	移動

※学校視察での授業見学はありません(期末考査日の為)。

☆プログラム

① 開会式 講話

吉田 晋 一般財団法人日本私学教育研究所 理事長
日本私立中学高等学校連合会 会長（中央教育審議会委員）

② 基調講演

◆演題 「私学教育フロンティアの新展開」
◆講師 高見 茂
京都大学学際融合教育研究推進センター特任教授
京都大学大学院前教育学研究科長・教育学部長
公益財団法人未来教育研究所理事長

〈講師プロフィール〉高見 茂（たかみ しげる）京都大学大学院前教育学研究科長・教育学部長、京都大学学際融合教育研究推進センター特任教授、公益財団法人未来教育研究所理事長。専門は教育行財政。教育資源配分と公共政策の関係について研究を進めている。主要論文・著書としては、「教育行政提要(平成版)」(2016年)、「教育法規スタートアップ・ネクスト Crossmedia Edition」(2018年)、「国立大学の法人化と国立学校特別会計」（江原武一・杉本均編著『大学の管理運営改革—日本の行方と諸外国の動向』東信堂、2005年所収）等がある。文部科学省職業実践力育成プログラム認定「京都大学私学経営アカデミー『学校経営ディレクター』資格取得講座」の主任講師を務める。関西教育行政学会会長。

③ 学校視察 ※ 授業見学はありません（期末考査日の為）

立命館中学校・高等学校 京都府長岡京市調子 1-1-1（SSH・SGH 指定校/小・中・高一貫教育/高大連携教育）
学校法人立命館 理事長 森島 朋三 立命館小学校・中学校・高等学校 代表校長 堀江 未来

☆視察プログラム

全体会 視察校代表挨拶 堀江 未来 立命館小学校・中学校・高等学校 代表校長
学校紹介 竹中 宏文 立命館小学校・中学校・高等学校 高等学校校長

キャンパス案内・質疑応答等

<参加者交流プログラム> ※学校・地域を越えた私学人のネットワークづくりの場。名刺をご持参下さい。

パワーランチ

参加者同士の情報交換・ネットワークづくりの為の交流昼食会（立食形式）
会場「**レストラン ラ・トゥール**」（京都大学 吉田キャンパス 百周年時計台記念館 1階）

④ ネットワーキングパーティ

※研修会を振り返りながら、参加者、関係者のネットワークを築き、
会場「**リーガロイヤルホテル京都**」 絆を深める為の懇談夕食会（着席形式・全員参加。懇談会費は参加費に含む）

◆ 講師・指導員（順不同）◆

北村 聡 京都府私立中学高等学校連合会 会長
高見 茂 京都大学学際融合教育研究推進センター 特任教授
(公財)日本未来教育研究所 理事長
堀江 未来 立命館小学校・中学校・高等学校 代表校長
竹中 宏文 立命館小学校・中学校・高等学校 高等学校校長
吉田 晋 富士見丘中学高等学校 理事長・校長
平方 邦行 工学院大学附属中学高等学校 校長
中川 武夫 蒲田女子高等学校 顧問
長塚 篤夫 順天中学高等学校 校長

◆ 専門委員・指導員（順不同）◆

木内 秀樹 東京成徳大学中学高等学校 理事長・校長
近藤 彰郎 八雲学園中学高等学校 理事長・校長
森 涼 学校法人石川高等学校・石川義塾中学校 理事長・校長
徳野 光博 学校法人東福岡学園(東福岡自彊館中学校・東福岡高等学校) 理事長
川本 芳久 (一財)日本私学教育研究所 理事・事務局長

☆研修会日程・プログラム☆

1 2月7日(金)〔研修会場 [京都大学 吉田キャンパス 百周年時計台記念館](#) 国際交流ホールⅢ〕

09:30～ 09:50	受付 <百周年時計台記念館2階 国際交流ホールⅢ>
09:50～ 10:30	<p>開会式 司会 川本 芳久 一般財団法人日本私学教育研究所理事・事務局長</p> <p>☆開会</p> <p>☆主催者挨拶 平方 邦行 一般財団法人日本私学教育研究所副理事長</p> <p>☆開催地代表挨拶 北村 聡 京都府私立中学高等学校連合会会長</p> <p>☆来賓・役員・専門委員紹介／日程説明</p> <p>講話 吉田 晋 一般財団法人日本私学教育研究所理事長 日本私立中学高等学校連合会会長(中央教育審議会委員)</p>
10:30～ 12:30	<p>基調講演 司会・講師紹介 森 涼 次世代リーダー育成専門委員</p> <p>☆演題 「私学教育フロンティアの新展開」</p> <p>☆講師 高見 茂 京都大学学際融合教育研究推進センター特任教授 京都大学大学院前教育学研究科長・教育学部長 公益財団法人未来教育研究所理事長</p> <p>謝辞 長塚 篤夫 一般財団法人日本私学教育研究所理事</p>
12:30～ 13:30	パワーランチ (情報交換・交流昼食会:立食) 会場 レストランラ・トゥール <百周年時計台記念館1階>
13:30～ 14:30	移動
14:30～ 16:30	<p>学校視察 ※授業見学はありません(期末考査日の為)。</p> <p>立命館中学校・高等学校 京都府長岡京市調子 1-1-1</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>立命館中学校・高等学校は、創立以来110年余の歴史と立命館の建学の精神である「自由と清新」に込められた人間力を育てる教育を継承しつつ、新キャンパスにおいて、新しい時代を切り拓くグローバルな視点を持って「新しい価値を創造し、未来に貢献する人」を育てる学校づくりに挑戦しています。</p> <p>長岡京キャンパスでは、生徒の「主体的な学び」をキーワードに、さまざまな形の学びが連携しあえる環境を整えています。</p> <p>2002年度から第4期連続指定のSSHの取り組みにおいては、サイエンスをキーに世界中の高校生が集うJapan Super Science Fair (JSSF)を中心に、高大接続と科学教育の国際化に挑戦してきました。また、初年度の2014年度から指定のSGHの取り組みでは、世界における「貧困・災害」の課題解決を目指し、Rits Super Global Forum(RSGF)での世界中の高校生同士のディスカッションをはじめ、世界規模の課題に対して真摯に向き合い貢献を志す生徒の育成に挑戦しています。</p> </div> <p>【視察プログラム】</p> <p>☆全体会 視察校代表挨拶 堀江 未来 立命館小学校・中学校・高等学校 代表校長 学校紹介 竹中 宏文 立命館小学校・中学校・高等学校 高等学校学校長</p> <p>☆キャンパス案内</p> <p>☆全体会 質疑応答等 お礼のことば 徳野 光博 次世代リーダー育成専門委員</p>
16:30～ 18:00	移動
18:00～ 19:30	<p>ネットワーキングパーティ(着席形式)【会場 リーガロイヤルホテル京都 2階春秋③】</p> <p>司会 川本 芳久 一般財団法人日本私学教育研究所理事・事務局長</p> <p>☆開会挨拶 中川 武夫 一般財団法人日本私学教育研究所理事・所長</p> <p>☆乾杯</p> <p>☆懇談</p> <p>☆研修会総括・閉会挨拶 木内 秀樹 次世代リーダー育成専門委員長</p>

〈概要〉

本年度は、12月7日に京都府京都市・京都大学吉田キャンパス外で「未来と夢を、私学に託す～未知の時代に躍動する学校の創生～」を研究のねらいに開催し、定員を大幅に超える70名が参加した。開会式では開催地を代表し北村聡・京都府私立中学高等学校連合会会長が挨拶し、吉田晋・当研究所理事長が講話を行った。

続いて高見茂・京都大学学際融合教育研究推進センター特任教授／(公財)未来教育研究所理事長による基調講演「私学フロンティアの新展開」を実施した。私学たる所以から、国際社会における日本の教育の立ち位置、私学が今後展開すべき具体的な方策など、高見氏の世界を見据えた示唆に富む講演に、参加者は大いに刺激を受けた。

情報交換・交流昼食会を挟み、立命館中学校・高等学校の視察では、堀江未来・代表校長が挨拶し、竹中宏文・高等学校学校長が学校紹介を行った。その後、生徒の案内によって充実した施設を見学した参加者は、施設だけではなく生徒たちの積極的で聡明な姿にも感銘を受けていた。

最後に行われたネットワーキングパーティでは研修会を振り返りつつ交流を深めた。非常に充実した研修会となり、成功裡に終了した。

開会式

主催者代表挨拶

(一財)日本私学教育研究所 副理事長 平方 邦行

急激な勢いでグローバル社会は変動しているが、学校教育の中身はどれほど変化に対応しているのか。今までの100年程度続いてきた学校制度を踏襲し、新しい動きを俯瞰しているだけでは如何しようもない時代になっている。

今日は次世代を担う先生方が沢山参加されており、今後の私学教育をどう発展させていくのか、皆様で考えていただければ幸いです。



開催地代表挨拶

京都府私立中学高等学校連合会 会長 北村 聡

平成30年度次世代リーダー育成部会が、本年度は京都で執り行われることを大変喜ばしく思う。全国各地から、ようこそ京都へお越し頂き、感謝申し上げます。

今回の研修が参加者の皆様にとって実り多いものとなる様お祈り申し上げます。また、研修会が皆様の見識を深める力となり、スムーズな学校の伝統の継承・発展に繋がることを祈念している。



講話

(一財)日本私学教育研究所 理事長 吉田 晋

今回の当部会の目的は、「厳しい環境下でも常に教育界をリードして若き人材を育む私立学校の次世代のリーダーが、先の読み難い未来を子どもたちが切り拓いていく為の新たな学びを支え得る強靱な経営体制の構築に向けた方策とそのヒントを探る」ことである。

さて、私立学校は現在どの様な立場に置かれているのか。私立学校の教育の良さは世間で認知されているが、未来を担う子どもたちの教育への国の予算については厳しい目が向けられている状況だ。また一部の公立学校では、公立学校の学費ながら私立学校の様な教育を行っている。では私立学校は一体どうすれば良いのだろうか。

現在の様な状況で公立学校との違いになるのは、建学の精神に基づく子どもへの思いだ。その子どもへの思いは我々の教育において発揮するもので、公立学校にできないことだ。教員1人ひとりの考え方は違っても、学校の建学の精神やそれに基づいた教育の為に1つになれるかが、これからの私立学校が生き残る為に重要だ。私立学校における校長の力は大きい、1人で教育はできない。仲間が必要だ。本日の様な場で情報を得て、互いの良いところを吸収し合いながら自分のものにして頂きたい。それらは全て21世紀を担う子どもたちの為になる。子どもを中心に考える為に協力し合えるのは私立学校の教員、仲間だ。そして自校の教員をより良くする為に必要なのは、今日の様に各学校のリーダーや未来のリーダーたちが協力して、日本の子どもたちの為にどうすれば良いのかを考え、その時代に合ったより良い教育をすることなのだ。

本日は高見先生の我々とは異なる観点からの講演や立命館の視察内容を、子どもたちの為にという思いを持って、自らのものにして頂きたい。



基調講演

「私学教育フロンティアの新展開」

京都大学学際融合教育研究推進センター 特任教授・(公財)未来教育研究所 理事長 高見 茂



私立学校の私立学校たる所以について3点挙げると、吉田先生のお話の通りだが、1点目は建学の理念・精神を持つことである。やはり私立学校の先生方にはこれを学んで頂かなくてはならない。次に、進取の気性である。新しいことに積極的にチャレンジする。私立学校としての自由を活用し、新しい試みに率先して取り組む。私立学校として非常に重要なポイントだ。3点目は、在野の精神だ。これは自主・独立の気持ちを持ち、公との距離をどう取るかということだ。補助金をもらうことだけに焦点化するあまり、補助金と自主・独立の交換関係になってしまわない様に気をつける必要がある。ではどの様に補助金を自分たちにとってプラスにするのか。例えば、先ほどの在野の精神や私立学校の自由をもって、子どもたちの教育にとってプラスになる試みを文部科学省等へ提案する。その取り組みによって社会的にどれほどの効果が得られ

るのか、日本の教育が良くなるのかを伝えた上で、スタートアップのバックアップを求めていく。私学人が自ら考えて提案する、提案型の補助金という発想を持って頂きたい。

次に日本の国際的ポジションを見てみよう。まずは経済分野において、平成元年と平成30年度の企業時価総額ランキングを比べると、50位以内にランクインしている日本企業は32社から1社まで減っている。産業界の危機感は尋常ではない。次に学術分野においては、2003年から2005年の論文数ランキングは2位であったが、2013年から2015年では4位となっている。被引用数も同様で、4位から9位へランクダウンしている状況だ。諸外国の成長に関してはドバイの町並みの変化を見ると分かりやすい。1990年から2003年では、砂漠からビル群へ変わっている。これが今の世界の実情だ。世界がこれだけ変わっている中、子どもたちの感覚はどうなのか。各国の若者の意識調査を見ると、日本の若者は自己肯定感の低さが際立っている。社会規範を守る意識については、「他人に迷惑をかけなければ、何をしようと個人の自由だ」という質問への賛同率が諸外国平均に比べて低い点が心配される。そして社会形成・社会参加の分野においても意欲の低さが見られる。子どもの発達という点からすると、10代後半から20代前半にかけて良く発達する能力が、この社会参加である。社会に参加し積極的に社会の力になることへの意欲を身につけさせ、学ばせることが非常に重要だ。高校と大学が協力して若者を育成する高大接続が、意欲の低さを克服する上で必要だ。高大接続の枠組みの中でプログラムなどを考えなければならない。また将来への希望の低さも見られるが、自国に対する意識に関しては多少高い結果になっている。

こうした状況で我々は何をすれば良いのか。私立学校としての新展開として、3つの処方箋を検討したい。第1に、指導方法・コンテンツの開発だ。近年よく言われるSociety5.0というサイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会では、IoTで全ての人と物がつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで課題・困難を克服するという。この様な社会において全ての人に求められるのは、AIに関する高度な知識・技術・活用力、数理・データサイエンスの知識、文章・情報を正確に読み解き対話する能力、科学的に思考・吟味し活用する能力、価値を見つけ出す感性と力、好奇心・探求力である。そして新たな社会を牽引するのは、技術革新・価値創造の源になる飛躍知を発見・創造する人材、技術革新と社会課題をつなげ、プラットフォームを創造する人材、AI、データを最大限活用し展開できる人材だ。これらの人材育成は教育の問題だ。諸外国と比較して日本の教育が遅れている分野について、向山洋一氏(TOSS代表)は、プログラミング教育・STEM教育・英語教育・特別支援教育・カリキュラムマネジメントだと述べている。先ほどの意識調査や国際的競争、Society5.0の時代となることを踏まえ、学校ではどの様な能力を身につけさせる必要があるのか。教科の学力が重要であることに変わりはないが、それに加えてソフトスキル(非認知能力)を身につけなければならない。そしてこれを担保する教育指導方法を開発する必要がある。アメリカでは教育プログラムの開発が進み、プログラム化・パッケージ化されているのに対し、日本では経験から蓄積してきたものを次の世代に伝達する方法が確立できていない。今後は先端的な教育指導法の開発が重要となってくる。

第2に、共同化だ。これによって費用抑制・経営資源の節約・獲得を見込むことができる。例えば教育機器や教具の共通・統一化を図ることで、メーカー側に対する交渉力が上がり、これは経営資源の節約に繋がる。受け身ではなく、自ら提案しなければ私立学校は生き残ることができない。また教育コンテンツの共通化も可能だ。ベーシックな部分は共同で教材を開発、e-learning化し、プラスアルファはそれぞれの学校で実施する。また、学校情報・データの管理においても同様だ。かつて国の力は労働力としてのヒト、天然資源・生産設備等のモノ、金融資本の力であるカネだったが、今はデータの世紀であり、データは富に変化する時代だ。学校には膨大なデータが蓄積されており、教育界はデータの宝庫、新しい時代の資源が眠る情報バンクと言える。共同で情報を管理し、情報銀行と取引をする様な時代が間近に迫っている。共同化によって優位性を確保し交渉力を強化することができる。

そして、資産運用における共同化をどの様にするのか。共同化によって安全性、高配当・利回りの追求が可能だが、

ここで強調したいのは投資家としての立場の強化だ。発言権を強め、企業のCSR活動を教育界に引き込み、企業と協力するのも1つの手段だ。

3点目は、私が最も関心を持つ分野でもある、教育輸出だ。「教育」には様々な役割がある。メインとなる役割は人材育成で、地域の産業を支える未来の働き手を育成する。また地域の一人としての役割も持っている。学生や教員は地域で日常生活を送り、祭等の年中行事に参加する。これは1980年代頃盛んとなった。そして産業としても重要な役割を持っている。これは教育自体が産業として外から人を呼び、消費を促進し、域内経済を活性化する。今後はこの「産業としての教育」が重要になる。何故なら多面的意義があるからで、まず地域経済を活性化することができる。欧米では一流大学ほど地域貢献をしているが、教育システム輸出も貢献の一手段だ。経常収支黒字持続へ貢献し、途上国への日本型教育システム輸出による人材育成に寄与することができる。国際収支の黒字を長期的に維持することが大切であるが、これまでの主力である貿易収支、近年稼ぎの中心である所得収支に加えて改善余地の大きい「サービス収支」（観光・金融等）の強化が重要となる。このサービス収支強化に教育は貢献できるのだ。なぜなら留学生の受け入れは教育サービスの輸出であるからだ。輸出側は授業料を受け取り、授業料はサービス収支を改善する。輸入側は授業料を支払い、高度な教育を受けた人材を獲得する。つまり教育は有力なサービス貿易手段なのだ。これにはアメリカ、イギリス、フランス、オーストラリアなどが積極的に取り組んでおり、例えばオーストラリアはサービス貿易手段として高等教育を位置づけている。アメリカではICT輸出に匹敵するレベルになっている。また近年は国境を越えた輸出形態が多様化しており、例えばマレーシアでは欧米から有名校を誘致し留学生をアジアから得ており、アラブ首長国連邦や韓国も注視している。国の戦略として日本型教育システム輸出を念頭に置く必要がある。日本の教育は意外なことに途上国からの評価が高い。注目されているのは、掃除当番、給食当番、日直や、学級会、運動会、部活動等の日本式教育の特徴である特別教育活動だ。これらの活動によって、規律、礼儀を重んじる精神を定着させることができ、倫理・道徳教育の手段として有効だ。途上国には集団行動、協調性、規律等を学校で教えるカリキュラムがない為、高い評価へと繋がっている。課題としては、日本式学校を整備しカリキュラムを導入するだけではなく、その運用に当たる人材の育成をしなければならない。現場教員への訓練・研修も必要だ。

教育輸出にはもう1つ意義がある。教育輸出は移民問題への処方箋ともなるのではないか。現在、世界的に優秀な人材の奪い合い現象が起きており、日本は少子高齢化が進んでいる。今後の日本を考えると、どこかで決断し優秀な人材の獲得を目指す必要がある。そこで、中等教育機関が海外へ進出し、日本の大学・大学院への進学を支援するという一貫システムを構築し、将来的には優秀な人材を日本に定着させる。つまり、教育を通して将来の日本人を育成する。この様なところまで踏み込んで考えなくてはいけない時代になっている。海外展開を1校で行うのは非常に難しいが、我々は目先の物事だけではなく、先の先を見据えて教育を考えていく必要があると考えている。

○質疑応答

Q.日本の教育システムの輸出について。アメリカが教育プログラム・システムのパッケージ化を進めているというが、タイミングを逃せばこれらのパッケージが日本のものを凌駕して世界中へ輸出されてしまうのではないか。

A.ご指摘の通りだ。従って3倍速くらいで取り組み、更なる工夫を重ねる必要がある。売れなくなれば更に良いものを作る様に、常に研究を続けねばならない。

Q.現在、地域（企業、大学、団体）との連携に取り組んでいるのでご意見を伺いたい。また教職員が人材としてどの様に進化すれば良いのか。

A.例えば、地域の方に来て話して頂くことで地域に興味・関心・愛着を持たせ、卒業後も地域に定着させる。

また、英語だけでなく日本の歴史や文化を知らなければ国際人と呼ぶことはできない。地域に出かけてそれらを学ぶことも重要だ。

教職員には、私学人として建学の理念・精神を徹底することが最も大切だ。そして積極的に学ぶ機会を与え、私立学校の教員として働く面白さを知ってもらうことも必要だ。私学人として生きるという根性を作らねばならない。

Q.働き方改革の問題について伺いたい。

A.もちろん重要だが、私立学校の立場としては教育の徹底が思う様に行えないとの問題もある。バランスが大切であり、上からの一律規制ではなく、それぞれの実情によって話し合っ決めてるのが良いと考えている。



パワーランチ

立食形式の昼食を取りながらの交流会で、打ち解けた雰囲気の中、交流を深めた。短い時間ではあったが、ネットワークを広げるきっかけとなった。

学校視察

〈全体会〉

視察校代表挨拶 立命館小学校・中学校・高等学校 代表校長 堀江 未来



代表校長とは何か、と良く聞かれる。小学校・中学校・高等学校それぞれの現場に現場の学校長がおり、3カ所を歩き来しながら全体を見るのが代表校長の仕事だ。小学校・中学校・高等学校を大学、外部と繋ぐ仕事でもある。また私は立命館大学の教員でもある。

挨拶に代えて、本校の目指しているところを紹介したい。パンフレットを見て頂くと、小中高12年間一貫教育のミッションを、「新しい価値を創造し社会に貢献できるグローバルリーダーの育成」と示している。新しい価値の創造、社会貢献、グローバルリーダーの3つのキーワードがあるが、とりわけ私は新しい価値の創造が重要だと思っている。AIなどの技術革新、グローバル化といった変化の中で、今ある仕事の半分がなくなる、という記事を目にすることも

多い。大人からすると脅威の様だが、子どもたちは新しい職業の社会構図にもすぐ慣れるだろう。変化の激しい社会に合わせるのではなく、自分から社会の変化を作る、つまり新しい価値を創造するという気合いと勇気と行動力、それを支える知恵、知識、それらを以て社会を良くしていこうという人道的な気持ちを身につけた生徒を育てていきたい。また生徒・生活指導上の主旨は自主自立としている。自分の目で見て自分の頭で考え、判断して行動することを最も大切にしており、教員の中でもそういった姿勢が蓄積されている。SSH・SGHなど国際的な展開も精力的にしており、自主自立の精神をグローバルな分野でも発揮することを目指している。今日は生徒による学校案内も行うので、色々聞いて頂けたらと思う。

学校紹介 立命館小学校・中学校・高等学校 高等学校学校長 竹中 宏文

今日は本校の普段通りの様子を見ていただければと思う。高校3年生が校舎を案内してくれるが、その前に概略を説明したい。

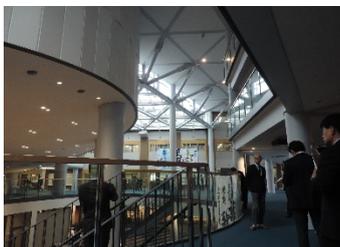
長岡京キャンパスには2014年9月に移転した。1900年に中川小十郎が立命館大学の前身である京都法政学校を、5年後に本校の前身である清和普通学校を設立した。今年で創立113年となる。中川小十郎は、京都大学初代事務局長だが、実業界へ転身した後再び教育界へ戻ってきた。当時の京都大学は有名な高校からしか進学できない状況であった。官ではなく民の力が重要と考えた中川が、学びたくても京都大学へ進学できなかった生徒を集めて開いたのが立命館大学のスタートだ。



新しい価値を創造し未来に貢献できる人を育てることを目指しており、21.5世紀型教育と呼んでいる。施設の特徴としては、人工芝のグラウンドや、メディアセンター(図書館)などがある。メディアセンターは7万冊蔵書できる設計で、インターネットの時代だからこそ書物に当たることは大切だと考え、調べたいことがあるとすぐに集まることができる校舎の中央に設置している。他にも、1060席の清和会記念ホール、100名収容のプレゼンルーム、屋上にはテニスコート、体育館や温水プールなどがそろう。長岡京に位置するということで、天井に竹をあしらっている部屋もある。いつでも使える様、廊下にプロジェクターを設置し、広いオープンスペースを設けた。プレゼンテーションやディスカッションに利用できる。

本校には大きな挑戦が3つある。12年間一貫教育、SGH・SSH中心の国際教育、医学部を目指すMSコースだ。12年間一貫教育では、従来とは異なり4年間で区切っている。国際化に関しては、14校の提携校がある。2002年度から4期連続でSSHに選ばれており、海外の理数系のトップ校と提携を進めてきた。毎年11月には世界各国から高校生を招いて英語で研究発表を行い、生徒が企画したプログラムに国籍を超えたチームで取り組んでいる。SGHでも、海外10カ国から高校生を招き、研究発表とディスカッションを行っている。他のコースでも大学の先生のアドバイスを受けるなど高大連携を始めている。MSコースではただ受験に合格することを目指すのではなく、使命感を持った医者を育てたいと考え、サンフランシスコ研修などのプログラムを行っている。

〈キャンパス案内〉



参加者はグループに分かれ、生徒の案内によって施設を見学した。広大なキャンパスや最新の設備、生徒たちの積極的で聡明な姿が特に印象的であった。参加者からもたいへん好評であった。

〈全体会〉

質疑応答

竹中宏文・高等学校学校長が、事前に参加者から受けた質問に答えた。

Q.高大接続について

A.本校は比較的早く、2006年頃から取り組んでいる。高校生が大学の授業へ行き、大学でも高校でも単位が認められるという制度だ。高校の教員と生徒が大学へ移動し、共同で指導することで両方の単位を認める様にした。最近では大学と高校の教員が相談して授業を行っている。

Q.入試形態について

A.中学校のネット出願は去年から始まった。また立命館守山中学高等学校では次年度から中学入試に英語を導入する。

Q.ICTの活用について

A.生徒へのタブレット端末の配付等には行っていないが、小学校では全員が持ち活用している。コンピューターは自由に使える環境で、プレゼンの授業などで使用している。

Q.問題行動生徒、保護者への対応について

A.保護者の要求にはできる限りチームで対応する様にしている。以前からカウンセラーも入っているが、今年からソーシャルワーカーにも入ってもらい、その子の生き立ちも含めて、最も合う指導法を考えている。

Q.学業・部活動・学校行事のバランスについて

A.本校では部活動が非常に盛んである。勉強が生徒主体で議論をしながら進める形に変化しており、本来は事前の学習が大切だ。しかし生徒にその点を意識させられず、部活動や学校行事に一生懸命になってしまっている。本校では部活動も学校行事も生徒たちが内容を考えて活動している。主体的な取り組みは身につけているが、基礎学力の徹底が課題だ。

Q.職員間の連携・分担・協力体制について

A.以前は毎週職員会議を行い、全てを決めていた。働き方改革の流れで最近は月に1回の全体会、学年や校種別の会議を開くにあたり、なるべく時間を短くする様に努めている。現在法人を挙げて働き方改革議論をしている最中だ。

ネットワーキングパーティ

北村聡・京都府私立中学高等学校連合会会長、講師の高見茂・特任教授、視察校の竹中宏文・高等学校学校長を来賓に迎え、次世代リーダー・現職リーダーらによる教育懇談会が行われた。中川武夫所長の開会挨拶、高見茂特任教授による挨拶、次世代リーダーによる乾杯後、参加者は名刺を交換し、親密な雰囲気の中、腹を割って話し合い、情報を交換し、交流を深めた。木内秀樹専門委員長が参加者にエールを送り研修会を締めくくった。



名刺交換をする参加者



中川武夫・所長



高見茂・京都大学特任教授



次世代リーダーによる乾杯



木内秀樹・専門委員長



乾杯をする参加者

～参加者からよせられた声～

問1 本研修会への参加の主目的

- ◇次世代のリーダーとしての心構えを新たにすると共に、情報を広く知る為。
- ◇次世代を担う教員と問題点の共有、意識を高める為。
- ◇最新の教育動向と、関西地区の先進的な学校の取り組みについて情報を収集する為。

問2 本研修会のプログラム・内容等について

〈講話〉

- ◇全ては子どもたちの為、私学教員として改めてその重要性を認識することができた。
- ◇最新の私学に関する情報が収集できありがたい。
- ◇最新の政治の流れも大変参考になった。

〈基調講演〉

- ◇とても広い視野と壮大な計画を伺うことができた。QFT、EDU-Port Japanの話が有意義であった。
- ◇管理職として大切なこと、基本的なこと、これからどうすべきかという道が見えてきた気がする。
- ◇今後の中等教育（私学）のあり方を検討する上で示唆に富む興味深い講演だった。

〈パワーランチ、ネットワーキングパーティ〉

- ◇短い時間ではあったが先生と名刺交換でき、それがきっかけでその後の意見交換もスムーズになった。
- ◇素晴らしい人脈形成ができた。
- ◇全国の先生方と少しずつだがお話しできて本当に良かった。

〈学校視察〉

- ◇SSH、SGH以外にも沢山の魅力があり、校舎のづくりも大変参考となった。生徒の案内が素晴らしかった。
- ◇他を圧倒する最新設備の数々やゆったりとした空間で、生徒たちも満足度が高いと思った。
- ◇素晴らしい学校だった。自校なりに参考にして今後活かしたい。

問3 最も重要視(又は直面)する喫緊の課題・関心事、その選択理由・具体例

「新しい教育（グローバル、ICT活用、STEM教育、プログラミング等）」

- ◇Society5.0で幸福感ある生徒たちの未来を創る為、過去に極端に依存することのない新しい学びの必然を痛感している。
 - ◇自県では公立学校が新しい教育に後ろ向きという状況。私学が率先して新しい教育に取り組んでいかなければ、自県の教育レベルが低下すると考える。本校では積極的に取り入れようとしているが、教員の意識改革が課題。
- 「教員の働き方改革・採用・育成・研修」
- ◇法令が次々に施行されるが現場の意識とルールが追いついていない。教育の質を維持し、経営（財政）の裏付けをする為にどうしたら良いか、悩むところである。
 - ◇教員がやる気になる職場を作る為の研修を勉強したい。

問4 来年度以降の当研修会、日私教研の研修事業に対する要望等

- ◇教職員の新しい学びへ向けた人材育成。

◆都道府県別参加者数◆

No.	都道府県名	人数	No.	都道府県名	人数	No.	都道府県名	人数
1	北海道	2	17	石川	0	33	岡山	1
2	青森	0	18	福井	0	34	広島	3
3	岩手	0	19	山梨	0	35	山口	0
4	宮城	1	20	長野	0	36	徳島	0
5	秋田	0	21	岐阜	0	37	香川	1
6	山形	0	22	静岡	2	38	愛媛	0
7	福島	0	23	愛知	2	39	高知	1
8	新潟	0	24	三重	0	40	福岡	5
9	茨城	1	25	滋賀	1	41	佐賀	0
10	栃木	0	26	京都	5	42	長崎	0
11	群馬	1	27	大阪	6	43	熊本	1
12	埼玉	0	28	兵庫	7	44	大分	2
13	千葉	4	29	奈良	1	45	宮崎	2
14	神奈川	4	30	和歌山	0	46	鹿児島	3
15	東京	13	31	鳥取	0	47	沖縄	0
16	富山	1	32	島根	0			
							24 都道府県 計	70